

CASBEE-新築(簡易版)2008年版

医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院(仮称)がん治療棟

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2008年

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.2
Q1 室内環境			0.40			3.4
1 音環境		2.9	0.15	2.9	1.00	2.9
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40	
1 1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	1.00	
2 2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		3.8	0.40	3.9	0.40	
1 1 開口部遮音性能	遮音性T-2を有する建具を採用し、室内外相互の音環境への配慮	5.0	0.40	5.0	0.30	
2 2 界壁遮音性能		3.0	0.60	4.0	0.30	
3 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
4 4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		1.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境		3.5	0.35	3.5	1.00	3.5
2.1 室温制御		4.1	0.50	4.1	0.50	
1 1 室温設定	各室温設定数値実現可能な設備容量が確保されている	5.0	0.38	5.0	0.57	
2 2 室温変動・過熱抑制性		-	-	-	-	
3 3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43	
4 4 ゾーン別制御性	適切な環境条件を維持できる様にゾーニングと局所空調を行う	4.0	0.38	-	-	
5 5 室温・湿度制御		-	-	-	-	
6 6 暑熱対策		-	-	-	-	
7 7 暑熱対策に対する配慮		-	-	-	-	
8 8 暑熱対策		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境		3.1	0.25	2.8	1.00	3.0
3.1 昼光利用		3.6	0.30	2.4	0.30	
1 1 昼光率	良質な室内採光環境を目指し、可能な限り開口面積を取っている	4.0	0.60	2.0	0.60	
2 2 方位別開口		-	-	-	-	
3 3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	3.0	0.30	
1 1 窓部遮光設備設置		-	-	-	-	
2 2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
1 1 照度		3.0	1.00	3.0	1.00	
2 2 照度測定		-	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境		3.9	0.25	3.8	1.00	3.8
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63	
1 1 化学汚染物質	内装仕上等の塗材はF☆☆☆☆製品を使用	4.0	1.00	4.0	1.00	
2 2 化学汚染物質		-	-	-	-	
3 3 化学汚染物質		-	-	-	-	
4 4 化学汚染物質		-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.30	3.6	0.38	
1 1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 2 自然換気性能		-	-	5.0	0.33	
3 3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4 4 換気設備		-	-	-	-	
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-	
1 1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 2 喫煙の制御	計画建物全館での禁煙の実施を行っている	5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.6
1 機能性		3.6	0.40	4.4	1.00	3.8
1.1 機能性・使いやすさ		4.0	0.60	5.0	0.60	
1 1 広さ・収納性		-	-	5.0	1.00	
2 2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 3 バリアフリー計画	バリアフリー新法による基準を望ましいレベルまで満たしている	4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.40	3.5	0.40	
1 1 広さ感・景観		-	-	4.0	0.50	
2 2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 3 内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理		-	-	-	-	
1 1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	
2 2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.6	0.31	-	-	3.6
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	
1 1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		4.1	0.33	-	-	
1 1 躯体材料の耐用年数	鉄筋コンクリート構造の採用により、耐用年数60年程度を見込む	4.0	0.23	-	-	
2 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	磁器質タイルを採用し、光触媒コーティングによる保護を実施	5.0	0.23	-	-	
3 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	PB下地の土 ビニルクロス貼により、耐用年数20年程度を見込む	4.0	0.09	-	-	
4 4 空調換気ダクトの更新必要間隔	ガルバリウム鋼板のダクト材料による長寿命化を図る	4.0	0.08	-	-	
5 5 空調・給排水配管の更新必要間隔	一般・汚水・雑排水管等に硬質塩化ビニル管を採用	5.0	0.15	-	-	
6 6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性			4.4	0.19		-	
1	空調・換気設備	適切な環境条件を維持できる様にゾーニングと局所空調を行う	5.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備	節水型衛生機器の採用に加え、井水の利用も採用	5.0	0.20		-	
3	電気設備	防災負荷、医療機器、保安用電源として非常用発電機の設置	5.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備	情報LAN、構内電話システムの構築による通信情報設備の多様化	4.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			3.3	0.29	3.0	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり			3.4	0.31	3.0	0.50	
1	階高のゆとり		3.0	0.60	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	将来更新を考慮し、ラーメン構造の採用	4.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.6	0.38		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性	将来更新を考慮し、ラーメン構造の採用	4.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性	地階主要設備機器更新のための、ドライエリア等による経路の確保	5.0	0.22		-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	計画建物周囲並びに既存棟間等の良好な温熱環境に努める	4.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.3
1 建物の熱負荷抑制			4.0	0.30		-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20		-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化			3.0	0.30		-	3.0
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
4.1	モニタリング		-	-		-	
4.2	運用管理体制		3.0	1.00		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.15		-	3.4
1.1	節水	節水型衛生機器の採用	4.0	0.40		-	
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67		-	
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.2	0.63		-	3.2
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	リサイクル資材:再生ビニル 使用部位:床材として3箇所	5.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22		-	3.2
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32		-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.68		-	
1	消火剤	スプリンクラー・補助散水栓による消火活動の対応を採用	4.0	0.33		-	
2	断熱材		3.0	0.33		-	
3	冷媒		3.0	0.33		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			3.7	0.33		-	3.7
2 地域環境への配慮			3.5	0.33		-	3.5
2.1	大気汚染防止	大気汚染物質を発生させる燃焼機器の使用を採用していない	5.0	0.25		-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50		-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33		-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	0.33		-	
2	振動		3.0	0.33		-	
3	悪臭		3.0	0.33		-	
3.2 風害、日照阻害の抑制			1.6	0.40		-	
1	風害の抑制		1.0	0.70		-	
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	(社)照明学会屋内照明基準を適用し、室内外の光環境への配慮	5.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	